

大学中心で復興支援

龍谷大がボランティア派遣や特産品販売

宗門関係の龍谷大学会を行った。また、夏の役割や使命を踏ま（赤松徹真学長）は、季休暇中の8月は4日、ボランティアを大から10日まで6泊7日学が中心となり長期的日本大震災の復興支援の日程で行われた。ボランティアに取り組んだという。

6月は24日から27日ガイダンス（説明会）は2001年にボランティアを実施。2日間で20ボランティア・NPO活動セ

日に実施。仙台別院に0人を超える学生・教職員が参加し、復興にある宗門のボランティアセンターを開設するなど、ボランティア活動に積極的に関与し、復興に熱い思いが寄せられ、他大学からも注目を集めている。東日本大震災に対し、大学が主体となって活動の細部までをコーディネートして取り組んでいるのはあまり例がないという。

6月の活動に参加した法学部4年生の竹本真梨さんは「活動した溝掃除も、現場では人



手が足りていないなど、現地に行かないとわからない被災地のニーズを肌で感じた。東日本の復興のために、被災地や京都での継続した活動を考え、実行していきたくて語る。語っている。

これまでにも、義援金募集や福島県の特産品販売などを行ってきた同大学は「それぞれ事情や立場にあった貢献を、全学をあげて積極的に行いたい」と語っている。